



ひと、くらし、みらいのために

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

栃木労働局 Press Release

報道関係者 各位

令和8年5月 29 日
栃木労働局 労働基準部 健康安全課
健康安全課長 斎藤 敏男
課長補佐 新谷 貴史
(電話) 028-634-9117

令和7年の熱中症による労働災害が過去最多

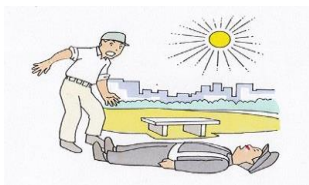
—STOP！熱中症クールワークキャンペーンを実施中—

栃木労働局(局長 なかのともき 中野知基)は、令和7年の栃木県内の職場における熱中症による死傷災害の発生状況について取りまとめました。

当局における熱中症による休業4日以上¹の死傷者数は、令和6年の2倍以上となる 37 人であり、過去最多となりました。(具体的な事例は別添1に記載のとおりです。)

熱中症は、初期症状への対応の遅れが重篤化につながるが多いため、令和7年6月1日から熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、迅速かつ適切に対処するための体制整備や手順作成などが事業者²に義務付けられました。(別添2)

栃木労働局では、「STOP!熱中症 クールワークキャンペーン」(5月1日～9月30日)(別添3)を実施し、事業者が WBGT 値(暑さ指数)の把握とその値に応じた適切な対策を講じることなどの熱中症予防対策の徹底を呼びかけます。



<添付資料>

別添1 令和7年 栃木県内の職場における熱中症労働災害発生状況

別添2 「令和7年6月1日に改正労働安全衛生規則が施行されます」職場における熱中症対策の強化について

別添3 「STOP！熱中症 クールワークキャンペーン」(令和8年度版)

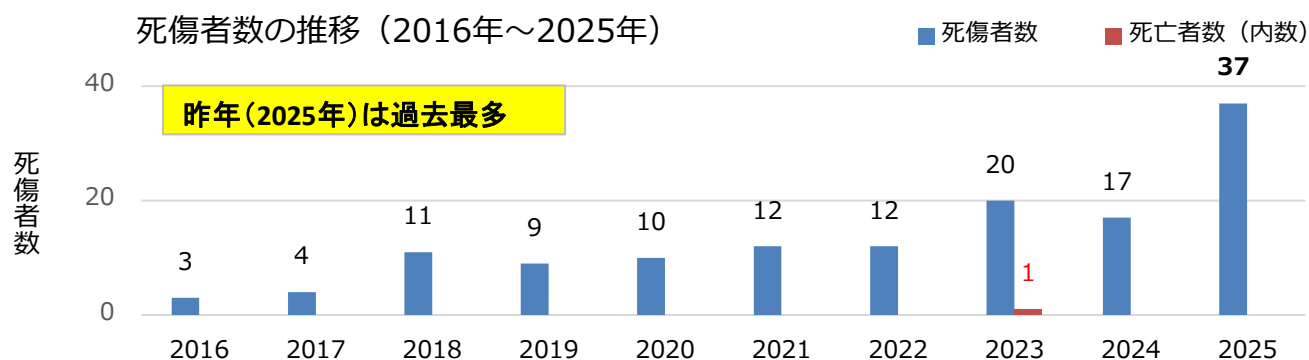
令和 7 年 栃木県内の職場における熱中症労働災害発生状況（抜粋）

栃木労働局

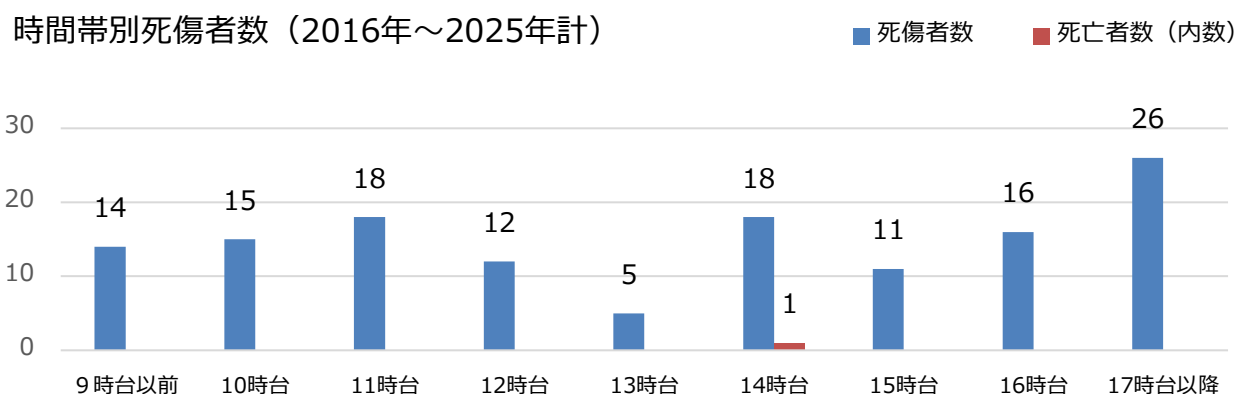
番号	発生月	業種	災害の概要
	時間帯	年齢	
1	6月	卸売業	屋外（気温32度）と温度差のある業務用冷凍庫（気温-50度）に海産物商品の出し入れ作業を行っていたところ、体調不良になり、その後、熱中症と診断された。
	11時～12時	50歳代	
2	6月	建築工事業	解体工事現場で、廃棄物を拾ってまとめる作業を行った後、帰宅してから、めまいやだるさの症状が出た。
	18時～19時	30歳代	
3	7月	化学工業	気温36度の工場内で、丸ノコを用いた加工作業を行っていたところ、熱中症になった。
	9時～10時	70歳代	
4	7月	警備業	建築現場で車両誘導の業務を行っていたところ、熱中症と思われる症状で立ちくらみがして、その場に倒れた。
	10時～11時	70歳代	
5	7月	化学工業	高温多湿の建屋内で、フレコンバッグの片付けを行っていたところ、前日から体調が優れない状態であったこともあり、熱中症になった。
	8時～9時	60歳代	
6	7月	電気通信工事業	気温35.5度の日に1日中、事業場の倉庫で、材料出し作業を行ったところ、意識を失い、救急搬送された後、熱中症と診断された。
	17時～18時	60歳代	
7	7月	通信業	配達のため二輪車で農道を走行中、意識を失い、草むらに転倒し、救急搬送され熱中症と診断された。
	17時～18時	60歳代	
8	8月	燃料小売業	ガソリンスタンドにおいて、1人で来客対応業務（給油、窓ふき等）を行っていたところ、体調不良となり、救急搬送され熱中症と診断された。最高気温は37.3度であった。
	8時～9時	40歳代	
9	8月	建築工事業	建築工事現場において、外構工事で舗装作業を行っていたところ、両足が痙攣し倒れこんだ。救急搬送され熱中症と診断された。
	16時～17時	30歳代	
10	9月	鋳物業	鋳型の型バラシ場において、鋳型屑の清掃作業中、熱中症を発症した。作業場の温度は37度であった。
	15時～16時	40歳代	

1. 職場における熱中症による死傷者数

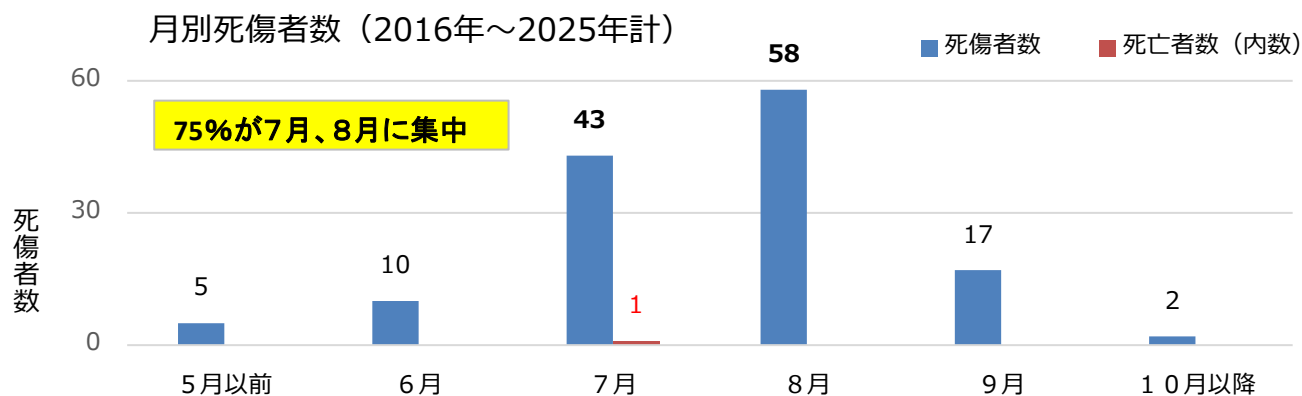
(1) 死傷者数の推移



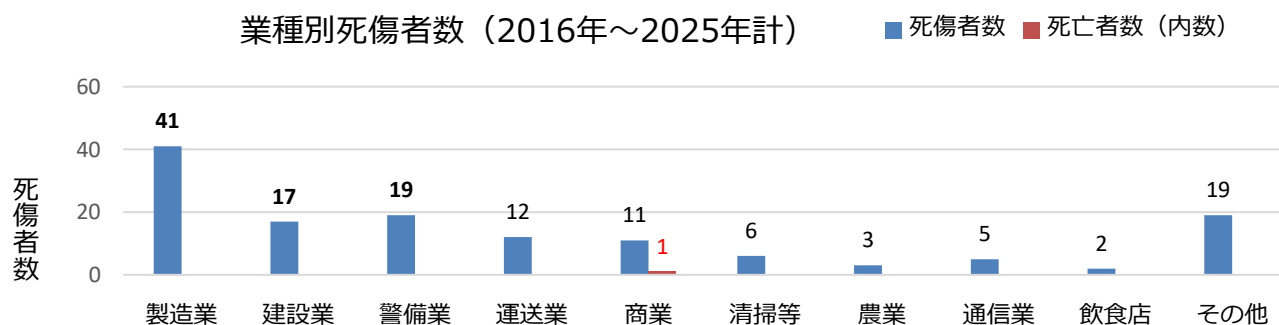
(2) 時間帯別死傷者数



(3) 月別死傷者数



(4) 業種別死傷者数



「令和7年6月1日に
改正労働安全衛生規則が施行されます」

職場における 熱中症対策の強化について



熱中症による 死亡災害の多発を踏まえた対策の強化について

職場における 熱中症による死亡災害の傾向

- ・ 死亡災害が2年連続で30人レベル。
- ・ 熱中症は死亡災害に至る割合が、他の災害の約5～6倍。
- ・ 死亡者の約7割は屋外作業であるため、気候変動の影響により更なる増加の懸念。

ほとんどが
「初期症状の放置・対応の遅れ」

早急に求められる対策

「職場における熱中症予防基本対策要綱」や「STOP! 熱中症クールワークキャンペーン実施要綱」で実施を求めている事項、現場で効果を上げている対策を参考に、

現場において
死亡に至らせない（重篤化させない）
ための適切な対策の実施が必要。

基本的な考え方



現場における対応

熱中症のおそれがある労働者を早期に見つけ、その状況に応じ、迅速かつ適切に対処することにより、熱中症の重篤化を防止するため、以下の「体制整備」、「手順作成」、「関係者への周知」が事業者には義務付けられます。

「令和7年6月1日に
改正労働安全衛生規則が施行されます」

職場における 熱中症対策の強化について



1

「熱中症の自覚症状がある作業員」や
「熱中症のおそれがある作業員を見つけた者」が
その旨を報告するための
体制整備及び関係作業員への周知。

※報告を受けるだけでなく、職場巡視やバディ制の採用、
ウェアラブルデバイス等の活用や双方向での定期連絡
などにより、熱中症の症状がある作業員を積極的に把握
するように努めましょう。

2

熱中症のおそれがある労働者を把握した場合に
迅速かつ的確な判断が可能となるよう、

- ① 事業場における緊急連絡網、緊急搬送先の連絡
先及び所在地等
- ② 作業離脱、身体冷却、医療機関への搬送等熱中
症による重篤化を防止するために必要な措置の実
施手順（フロー図①②を参考例として）の作成及
び関係作業員への周知

対象となるのは

「WBGT28度以上又は気温31度以上の環境下で
連続1時間以上又は1日4時間を超えて実施」が見込まれる作業

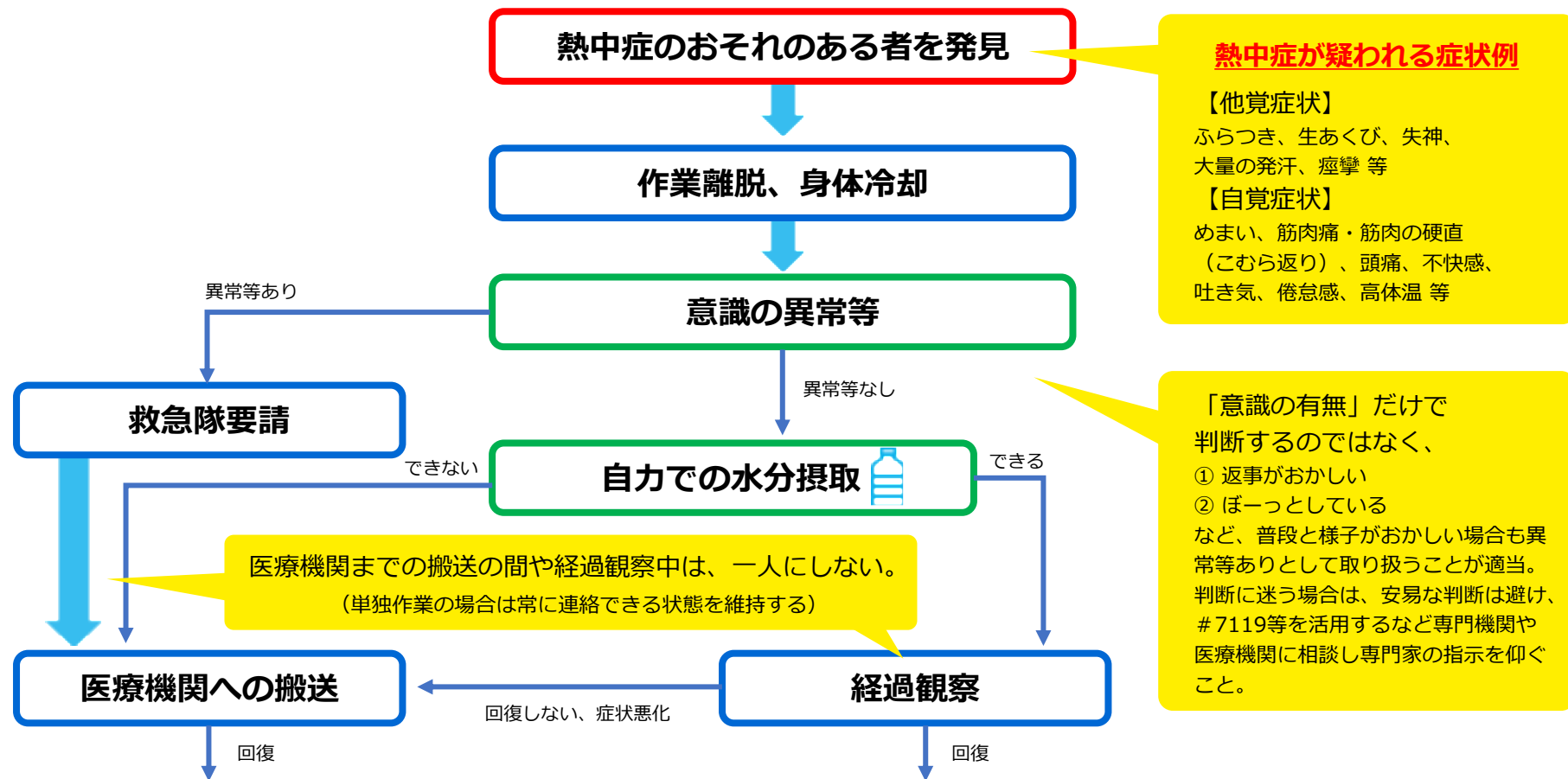
※作業強度や着衣の状況等によっては、上記の作業に該当しない場合であっても熱中症のリスクが高まるため、上記に準じた対応を推奨する。

※なお、同一の作業場において、労働者以外の熱中症のおそれのある作業に従事する者についても、上記対応を講ずることとする。

職場における熱中症対策の強化について

熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図 1

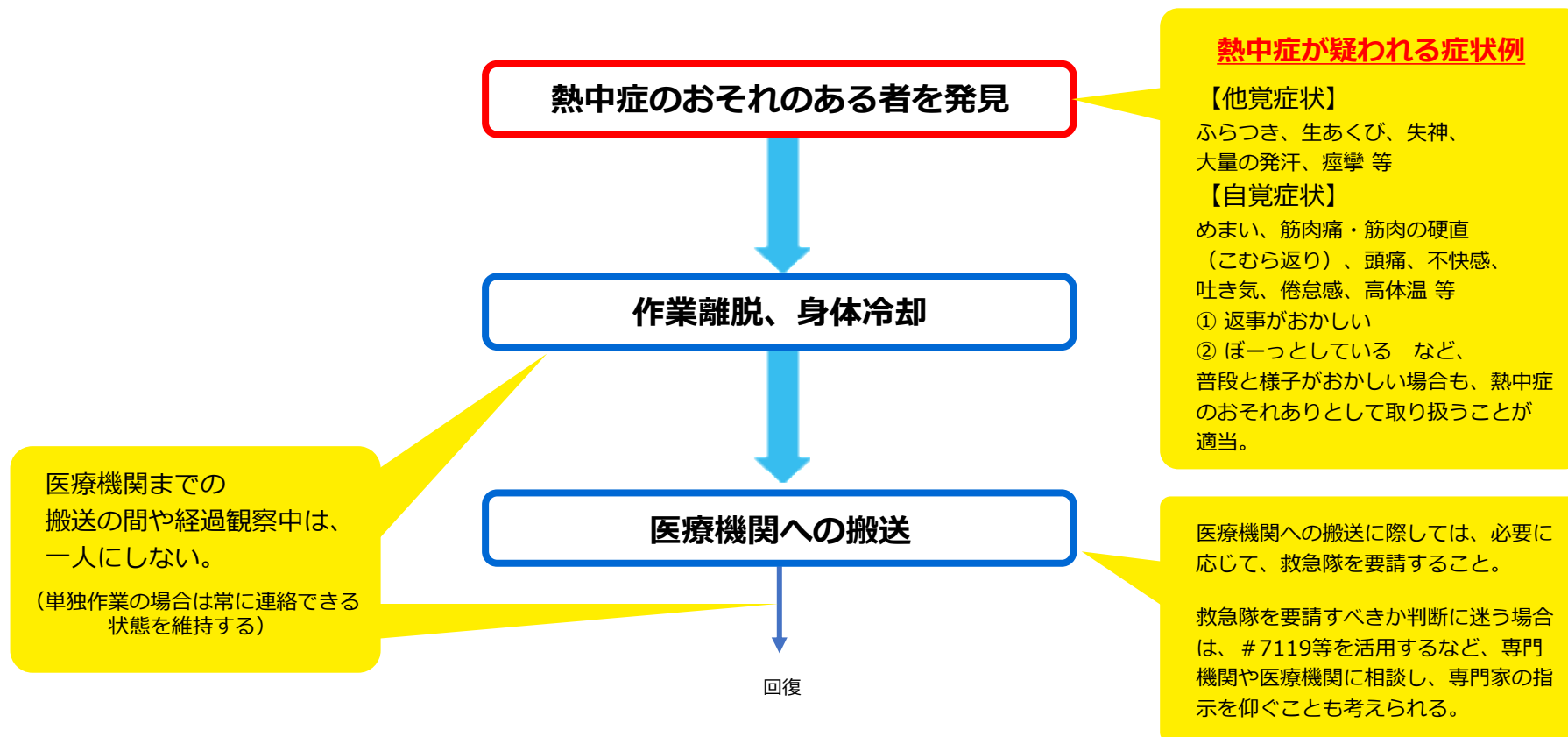
※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、
連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておく。

熱中症のおそれのある者に対する処置の例 フロー図 ②

※これはあくまでも参考例であり、現場の実情にあった内容にしましょう。



回復後の体調急変等により症状が悪化するケースがあるため、
連絡体制や体調急変時等の対応をあらかじめ定めておく。

STOP!

熱中症 クールワーク キャンペーン



職場での熱中症により近年は、
一年間で約30人が亡くなり、
約1,000人以上が4日以上
仕事を休んでいます。



◀ 熱中症対策情報はこちら

キャンペーン期間



準備期間 4月 にすべきこと

きちんと実施されているかを確認し、
☑チェックしましょう。

労働衛生管理体制の確立

事業場ごとに熱中症予防管理者を選任し
熱中症予防の責任体制を確立

暑さ指数（WBGT）の把握の準備

JIS規格に適合した暑さ指数計を準備し、点検

作業手順・作業計画の策定

暑さ指数に応じた休憩時間の確保、作業中止
に関する事項を含めた作業手順・作業計画を
策定

設備対策の検討

暑さ指数低減のため簡易な屋根、通風または
冷房設備、散水設備の設置を検討

休憩場所の確保の検討

冷房を備えた休憩場所や
涼しい休憩場所の確保を検討

服装の検討

透湿性と通気性の良い服装を準備、送風や
送水により身体を冷却する機能をもつ服の
着用も検討

教育研修 の実施

ガイド・教育動画 e-learning

管理者、作業者に
対する教育を実施



緊急時の対応の事前確認

緊急時の対応（異常時における連絡体制や
対応手順等）を確認し、関係者に周知

【主唱】厚生労働省、中央労働災害防止協会、建設業労働災害防止協会、陸上貨物運送事業労働災害防止協会、港湾貨物運送事業労働災害防止協会、林業・木材製造業労働災害防止協会、一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会、一般社団法人全国警備業協会【協賛】公益社団法人日本保安用品協会、一般社団法人日本電気計測器工業会【後援】関係省庁（予定）

キャンペーン期間 5月～9月 にすべきこと



環境省
熱中症予防情報
サイト



STEP
1

暑さ指数の把握と評価

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握
地域を代表する一般的な暑さ指数(環境省)を参考とすることも有効

STEP
2

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底



暑さ指数の低減

準備期間に検討した設備対策を実施



休憩場所の整備

準備期間に検討した休憩場所を設置



服装

準備期間に検討した服装を着用



作業時間の短縮

作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、
作業中止



プレクーリング

作業開始前や休憩時間中に深部体温を下げる



水分・塩分の摂取

水分と塩分を定期的に摂取(水分等を携行
させる等を考慮)



暑熱順化への対応

熱に慣らすため、7日以上かけて作業時間
の調整
※新規入職者や休み明け作業者は別途注意
すること



健康診断結果に基づく対応

次の疾病を持った方には医師等の意見を踏ま
え配慮 ①糖尿病 ②高血圧症 ③心疾患 ④腎
不全 ⑤精神・神経関係の疾患 ⑥広範囲の皮
膚疾患 ⑦感冒 ⑧下痢



日常の健康管理

当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量
の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを
指導し、作業開始前に確認



作業中の作業者の 健康状態の確認

巡視を頻繁に行い声をかける、
「バディ」を組み合わせる等作業者にお互いの
健康状態を留意するよう指導



異常時の 対応

あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等の周知徹底
少しでも本人や周りが異変を感じたら、あらかじめ作成した連絡体制や対応手順等に基づき適切に対応
※必ず一旦作業を離れ、**全身を濡らして送風すること**などにより身体を冷却
※症状が回復しない場合は躊躇なく病院に搬送する(症状に応じて救急隊を要請)

重点取組期間

7月

にすべきこと



- 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- 暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底
- 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- 熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施
- 熱中症のおそれがある者を発見したときは、躊躇することなく救急隊を要請